

## 劇場活動にかかる評価リテラシー育成のための教育プログラムの開発

～自己評価ガイドブックの作成及び調査アプリの開発～



### アドバイザーからのメッセージ

#### 地域におけるこれからの劇場づくり

一般財団法人 地域創造  
プロデューサー 津村 卓

近年、芸術が持つ力が社会やまちの課題に対して有効なツールとされています。アーティスト本来の姿である表現行為である公演またコンサートを実施すると同時に、ワークショップやアウトリーチを通して事業を展開することが多くなってきました。そのなかでクリエイションや公演を実施することがハードルとなって来ました。これではこれからのアーティストを育成していくことや、世界に提出していく作品づくりが進んでいかなくなるのではないかと、私自身は危惧しています。私はこれまで運営を任されてきた劇場で、ワークショップ・アウトリーチをお願いしたアーティスト、また劇団、そういう方々には、翌年度になっても構わないので、公演もしくはクリエイションを行うことをスタッフに要求しました。そうすることで、先のことを考えながら、目の前のワークショップなどの事業を構成、実施してくれるように、スタッフがなっていったという現実があります。

では、なぜそのことが必要なのか。なぜ公演というものが先にないとだめなのか、ということなのですが、アーティスト本来の姿として彼らが一体何を考え、アートとどう向き合っているのか、そして何がしたいのかということ、スタッフ自身がちゃんとアーティストとのコミュニケーションの中で受け止めてもらうことが、スタッフがアートと地域の間を繋いでいくコーディネーターとしての育成に最も有効なもの、私自身は思っています。

また、ワークショップ・アウトリーチで、アーティスト自身にどういうものが得られるのか、参加者から何を得られるのかということ、どう提供し、そしてコーディネートするかということも重要なことになっていきます。そのことがうまくいけば、これこそ理想的なワークショップ・アウトリーチのプログラムになるのではないのでしょうか。そして、地域の持つ資源や環境を提供することで、アーティストがその地域を特別なものとして感じてくれる、これこそアーティストのポテンシャルをどう上げていくかということのひとつの要素だと思っています。これらのことが公演に結びついていくことが、理想的な、地域で行うクリエイションであり、公演になっていくのではないかと私は感じています。そして、最後に。これは一番大きなことですが、公共劇場として未来のことを考えて事業を進めていくという責任、これが重要だと思います。

なぜこのような事業が必要であるか。今回のコロナ禍において、感染対策が取られるなか、都道府県を超える人の流れを止める対策が取られました。地域によってはアーティストまたコーディネーターを東京ほかから招聘することが出来なくなりました。結果として芸術活動が停止してしまうということになりました。

将来のことを考えると、アーティスト・イン・レジデンスを中心としたクリエイティブな事業によって、地域でアーティストやコーディネーターを創っていく事業が、これから重要な劇場・ホールの企画になっていかなければならないと思います。

地域においてアーティストまたコーディネーターの育成と作品づくり、そして、公演を行うことで地域のアイデンティティを構築していくこと。また地域にアーティストが存在し、活動すること、これは、地域資源の再発見や地域の課題、そして地域社会の課題に対して向き合うことが、地域においての存在を示していくことであり、文化芸術を推進していく大きな理由になるはずです。アートを基に市民とアーティストの交流を行うことによって生まれるコミュニケーション、またコミュニティの再生と活性化を進めるとともに、想像力や多様性も喚起していく。そのためには、その度にどこかからアーティストを呼んでくるのではなくて、地域の中に、いかにまちと市民と向き合うアーティストを育てるかということが重要になります。

ではなぜ、コミュニティや想像力、多様性を喚起しないといけないのかということに関して、特に、今の子どもたちに対して、アートをいかに提供していくのかが、重要なことだと思います。昨年度の4月から義務教育の学習指導要綱が変わりましたが、アクティブラーニングを基にした授業を全国の中学生に行うことになりました。しかしコロナ感染によって実施することがほぼありませんでした。アクティブラーニングというのは、正解や不正解のないものをどういうふうにつくっていくのか、これまでの教育では考えられない授業が本来ならばスタートしていたはずなのです。皆様もよくお分かりの通り、答えのないものを提出するというのは、まさにアーティストの仕事なわけです。そのため、アーティストがいかにこれから教育にかかわっていくのかということが重要ですし、そのことが求められていくと思います。

そして大学の受験においても点数以外にどういった発想力を持っているのか、与えられた情報や物事に対する考え方が重要な要素になって来ます。これまでに想像力やコミュニケーション力を高めるための体験をしているか、していないかによって、大学受験に大きな影響が出てくると言われています。そういう意味で、地域にアーティストがいることが、これから先はずごく大きな力になっていくと思います。

また地域社会がいかに持続可能になっていくのかということに対して、地域のアイデンティティをつくり、若者の定着を生み、そして環境整備されれば若い人たちが流入してくるという大きな流れが今生まれています。地域の中で作品をつくり、地域の中で公演をし、アーティストを育てていくなかで、新しい感性のなかで、新しい仕事づくりも生まれてきてい

ます。これらの企画事業は、これから先の地域の公共劇場のミッションと目的になっていくのではないかと考えています。私自身もこれまで北九州芸術劇場や上田市交流文化芸術センター サントミュージゼにおいて、何人ものアーティストの方々にご協力をいただいて、アウトリーチ、ワークショップ、作品づくりをしてきたという経験があります。そのなかで公民が協働し、若い世代が中心となって新しい動きとともに、新しいビジネスが生まれ新しい市民が活躍できる場が生まれてきました。

これから先、大きな公演も必要です。お客様が喜んで、幅広い年齢層の方々が喜んでくれる公演も必要です。でも一番の目的とミッションは、その地域の中で、どういうふうアーティストを育てていくのか、小さくても地域の中で意志を持ち、意味のある公演を企画していくことが、最終的な目標になっていくのではないかと考えています。